

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971000258		
法人名	社会福祉法人 蒼隆会		
事業所名	グループホーム すばる		
所在地	奈良県香芝市鎌田157番地1		
自己評価作成日	令和3年5月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2971000258-006&amp;serviceCd=320&amp;type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2971000258-006&amp;serviceCd=320&amp;type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和3年6月4日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達グループホームすばるは、二上山・葛城山のふもとにあり、周りには田んぼや畑があり、地域の皆様のご理解・ご協力のもと、日々9名のご利用者と職員で生活を送っています。同敷地内には特別養護老人ホームやデイサービスを併設しています。敷地内には畑や花壇があり、散歩の時の憩いの場となっています。食事面では、3食のご飯やお汁物の準備をご利用者とともにに行い、おかずの準備を厨房よりお願いしている為、栄養バランスの良いお食事を提供出来ております。週に1、2回行っているお料理日には1食全ての献立を考え、スーパーに買い物へ行き、各々が出来る作業を行って頂き、楽しい一時となっています。日々の日課は決めていない分、時間に追われることない、ご利用者と職員が寄り添え、一緒に笑顔になれる「家」を目標に日々取り組んでおります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、二上山や葛城山が望める田畑の多いのどかな地域に、敷地内に特別養護老人ホーム、デイサービス、グループホーム、居宅介護支援事業所を運営し、地域との交流を深めるスペースも作られている。法人代表者もホーム管理者も地域住民で、地域との交流と絆は強い。職員全員で考え創っていくホームを理想としており、利用者も職員も大切にしたい法人の想いが感じられる。広々とした空間にのどかで穏やかな時間が流れ、穏やかに優しくに包まれた生活を望まれる方に勧められるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と考え、作り上げたグループホームの理念をご利用者に書いていただき、職員・ご家族様が見やすい場所に掲示しております。	玄関に法人の理念と共に、利用者が毛筆で書いた『みんな毎日 笑顔で過ごす家』という事業所の理念を掲げている。職員は出退勤時に目に触れ自然と理念が浸透しており、理念に沿ったサービス提供を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	最近では新型コロナウイルス感染症への配慮もあり、地域の方やご家族様の面会をお断りしております。	管理者も法人施設長も地域住民であり、清掃や行事などの情報が入ってくる。コロナ禍でも小学生の下校時、「ながら見守り」を利用者と一緒に参加している。コロナ禍前は、公民館のイベント、鎌田天神社への初詣、清掃、夏祭り、秋祭りなどに参加し地域との交流していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々への発信はまだまだ出来ておらず、地域貢献は不十分だと感じております。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議は書面での報告となっており、話し合いは出来ていません。ホームでの様子が分かるような報告書を作成するように心掛けております。	運営推進会議は、コロナ禍で書面開催となっている。以前は市介護福祉課職員2名、民生委員、家族1・2名が参加して業務報告や行事予定などを報告し、質問や意見を聴いていた。家族の参加を促すため、最終木曜に設定し周知していた。	
5	(4)	令和3年6月4日 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時には連絡をし、相談をさせていただき、ご指導をいただくようにしております。	市介護福祉課へは、利用者の介護保険更新手続きや事故報告などで出かけ、運営推進会議の議事録も届けている。偶数月には市内グループホーム6事業者の管理者が集まり情報交換し、グループラインもつづっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はこれまでも行っておらず、今後も行わない方針であります。	ホーム開設18年、身体拘束ゼロを目指して取り組んでいる。日勤帯は玄関を施錠していない。各居室の掃き出し窓から戸外に出ることができる。3キロある駅まで歩かれた方に、車いすや飲物を持ち、付き合ったこともある。センサーマットは使わず、鈴やタンバリンを使ったしている。何が身体拘束に当たるのか具体的に話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待を行ってはいけない、と各職員が認識しており、虐待を行わない風通しの良い職場づくりを心掛けております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業への理解・活用は出来ておらず、不十分だと感じております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族様に丁寧な説明を心掛け、質問などあれば分かりやすくお返事させていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年より開催は出来ていませんが、運営推進会議内でご家族からの意見等があれば、管理者より職員へ伝えるようにしております。	遠方の家族には電話で利用者の様子を伝えたり、利用者と替わって話をして頂くことがある。運営推進会議で家族から直接意見を聴けることもある。コロナ禍で、面会は窓越しで実施しており、玄関に意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に参加する職員より、ご利用者の事やホーム内の意見・提案を伺うように心掛けております。意見等あれば、法人へ伝えるようにしています。	管理者は日常的に職員とコミュニケーションを取り、意見を聴取している。職員会議は1・2ヶ月に1回、全員参加で、利用者のこと、ケア内容や統一、法人からの伝達事項を話題としている。職員全員で考え創っていくホームを理想としている。必要時、職員の個別面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力したいと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	不十分であると感じます。研修の機会の確保に努めたいと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの管理者の方、ご利用者の方との交流を行うようにしております。勉強会は出来ておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居を考えられている方がおられたら、ホーム内への訪問や体験利用などを通じて、ホームの事をご理解いただき、ご利用者に安心していただけるような関係づくりを心掛けております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお話を伺い、私たちのグループホームで出来ることは何か、と一緒に考えていくように心掛けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入所に至る前に、ご家族様ともしっかりと話し合いを重ねるように心掛けております。ホームへの入居のみならず、在宅で使えるサービスや他施設のサービスなどもお伝えするようにしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者同士、ご利用者と職員は、共に支え合う関係である、ということは理解し、実施していただいていると感じます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者とご家族様、職員が支えあえる関係を目指し、日々ケアに当たっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	買い物はいつものスーパーに行くことや行きつけのご飯屋さんに行っていましたが、今は外出も自粛していますのでご利用者は寂しく思われていると思います。	コロナ禍で散歩や買い物、外食や地域との交流ができなくなっているが、車でドライブして花見を行った。毎月の請求書郵送時に、誕生会や時節の行事の写真を送っている。利用者の好みの物を持参されたり送ってこられる家族もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を注視し、変化があれば職員同士で情報を共有し、あまり過剰にかかわるのではなく、ご利用者同士の様子を見守り、支えることができれば、と考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	不十分だと感じますが、契約終了後もご家族様に連絡を取らせていただき、退所後の様子や困られた時に相談していただけるような関係を続けるようにしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各々のご利用者の思いを汲み取り、ケアに取り入れるように努めております。	入居時に長年の生活歴や趣味趣向などを聴き、フェースシートに記録している。利用者にとって大切な人の名前なども記録している。入居後は、利用者や家族とのコミュニケーションの中で思いを把握するよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前はもちろん、入所後もご家族様よりご利用者の様々な情報を伺うようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の言動に注意を払い、ケアに当たるように努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	不十分ではありますが、作成しております。	職員会議や申し送りノート、職員との話から利用者の情報を聴取し、管理者が原則半年に1回、介護計画を作成している。利用者担当職員が毎月モニタリングしている。介護計画に、利用者の笑顔につながる項目をより多く盛り込んで頂くことを期待する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者のファイルや連絡ノートを活用し、ご利用者の変化や言動を記録するように心掛けております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの要望等あれば、個々のご利用者の状態に合わせ、ケアを行うようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は活用できておりません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医に継続して診察をお願いする場合と、当法人嘱託医に変更し、全面的に健康管理をお願いする場合があります。	内科の協力医が、2週に1回訪問診療を行っている。個々のかかりつけ医の往診や外来受診も受け入れている。併設特養の看護師が日勤帯は365日勤務しており、必要時は対応してもらえ。夜間の急患時、地域在住の管理者に連絡が入る。AEDもホームに設置している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常駐しておりませんが、緊急時や医療で困りごとがあると、併設する特別養護老人ホームの看護師に指示を仰ぐ、主治医に連絡するようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された場合は、入院先の看護師や医療相談員と連携を取り、入院中も面談へ伺うようにしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアについてはまだ方針が定まっておりますが、早急に対応を考えて行きたいと思っております。	入居時、すでに特養も申込みされている方が多く、終末期になると特養へ移る方が多い。家族の希望で、医師、職員の連携のもと老衰で102歳の方を看取ったこともあった。医療処置のない方は家族、医師、職員の連携で看取りが可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な応急手当や急変時の初期対応訓練は行っておりません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との連絡・協力体制を築くことは出来ました。	この1年、昼間で火元が台所を想定し、集合場所(敷地の門扉)までの避難訓練を1回実施した。利用者9名(内車いす移動3名)、職員3名で10～16分かかった。緊急時は隣の法人他施設からの応援も得られる。地域の消防団にも頼んでいて、月1回の消防訓練にも参加している。備蓄は、水や食料が3日分あり、法人の管理栄養士が管理している。	火災や地震などの災害は何時起こるかわからず、隣の特養からの支援も期待できるが、夜勤は1人勤務で、職員の混乱もありえる。手順が一目で分かる緊急時マニュアルの完備が必要と考えられる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念にも掲げており、日々実践するように心掛けております。	利用者は人生の先輩として自然に丁寧に接して声掛けをする。苗字か下の名前の「さん」付けで呼び、馴れ馴れしなく、誰が聞いても不快を感じない対応をしている。職員同士、気の付いたことを注意し合う関係が出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の想いを伺うことが出来るような、ゆったりとした雰囲気作りを心掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者が自分の思い・希望を行えるように、落ち着いて過ごせるように、日々の日課は決めないようにしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、お化粧をしたり、お気に入りの洋服を着ていただくように配慮しております。日常的に化粧をされている方もおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事やおやつ準備は、ご利用者と共に行うようにしております。	管理栄養士が考えたバランス取れた主菜が、隣の特養の厨房から運ばれ、ご飯と汁物はホームで作っている。週1回利用者の希望を聞き、昼食に寿司、ハンバーグなどを手作りし、職員も一緒に食べている。利用者も、米研ぎ、食材下ごしらえ、盛り付けなどを行っている。家族や地域の方からいただいた筍や豆、園の畑で採れた玉ねぎやスイカなども食卓にのせている。コロナ禍が終息すれば、また外食も楽しむ予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の把握のため、チェック表をつけたり、ご利用者に応じた食事の量を提供するようにしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しております。必要に応じて、夜間に義歯洗浄剤を用いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日誌やチェック表を使用することで、排泄間隔の把握と誘導を行っております。	利用者9名の内、布パンツの方5名、リハビリパンツの方4名で、オムツ着用の方はいない。業務日誌で全員の排泄状況を一目で把握できる。自宅でリハビリパンツを使用していた方が布パンツに向上した方がいる。乳製品や食物繊維に配慮した食の提供も考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らざるを得ないこともあります、水分の充足と食物繊維や乳酸菌を摂っていただくこともあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日には1日お風呂を沸かしています。ただ、一人一人の入浴に掛かる時間が違うため、毎日全員の方が入浴出来ない場合もあります。	お風呂は毎日準備し、希望すれば毎日でも入浴することができる。時間は日勤帯の食事とおやつ以外の時間で可能である。通常、利用者と1対1名で対応しているが、浴槽は広く3名一緒でも可能で、ご夫婦や友人同士で入られることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後はそれぞれの時間の過ごし方をされてから、就寝されております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の管理・投薬に至るまで、職員管理とさせていただきます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の状態に合わせて役割をお願いし、レクリエーションでは、個人で対応させていただく場合と集団で行う場合があります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に戸外に出られますので、ご利用者が戸外に行かれた場合は、付添い、一緒に散歩をしております。ご家族様と一緒に外出することはご遠慮いただいております。	コロナ禍で外来受診以外、敷地の外への外出は控えている。日中は建物外へ自由に出られ、散歩、藤棚の下でのお茶は日常である。桜の時期、大中公園へドライブし車内から楽しんだ。以前は、週1回の買い物を利用者と一緒にいたり、月1回は外食に行ったりしていた。家族と一緒に出掛ける方もあった。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお財布を持たれている場合もありますが、基本はご家族様からお預かりしたお金を事務所で管理させていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に出来ます。面会をお断りさせていただいている分、電話や手紙のやり取りなどもされております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者と過ごす共用空間にはご利用者の作品を貼らせていただいたり、中庭では小動物を飼わせていただいたり、採光はまぶしくならないように心掛けております。	平屋の広々とした1ユニットで、ゆったりとした安心感が得られる。吹き抜けの明かりが心地よく入り、利用者と職員は穏やかな同じ動きで生活をしている。壁面には季節を感じる利用者の作品が飾り付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者と過ごす共用空間にはご利用者の作品を貼らせていただいたり、共用空間からすべての居室が見渡せるようになっております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、今まで使っておられた家具や身の回りの物をご持参頂くようお願いしており、居室に戻られた際には落ち着いた環境であるように配慮するようにしております。	居室入口には手づくりの表札が掛けられており、居室内にはトイレ、洗面台、クローゼットが備え付けられている。利用者の馴染みのベッドやタンス、椅子やテーブル等を持ち込み、居心地よく暮らせるよう工夫がなされている。9日に1回、リネンの日には、布団干しをする。掃き出し窓を開ければ、自由に戸外へ出られるように作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の状態の確認や今までされていた活動の継続のため、職員同士の情報共有とご家族様からのお話を大切にしております。		